

とちぎみちづくり構想

平成28年6月
栃木県



とちぎみちづくり構想

位置づけ

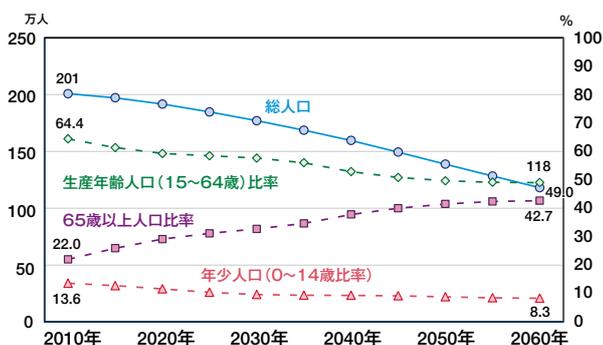
「とちぎみちづくり構想」は、「とちぎ元気発信プラン」に掲げる将来像の実現に向け、国土全体、地域全体という広域レベルから、都市と農山村のレベルに至るまで、活発な連携交流を促進していく上で、その基盤となる高規格幹線道路や地域高規格道路、及びこれらと一体的に機能する広域的な幹線道路網のあり方を定めたものです。

この計画は、「広域道路網整備の基本方針」と「広域道路網マスタープラン」から構成され、本県における21世紀中頃を見据えた県土づくり・地域づくりに整合した広域道路のネットワークの考え方を整理したものであり、今後、さらに詳細な道路計画を策定する際の基礎となるものです。

背景

■人口減少・超高齢社会の到来

本県では2060年には人口が120万人を下回る一方で、65歳以上の割合が4割を上回るなど、今後、人口減少・高齢化が一層進行することが予測されます。

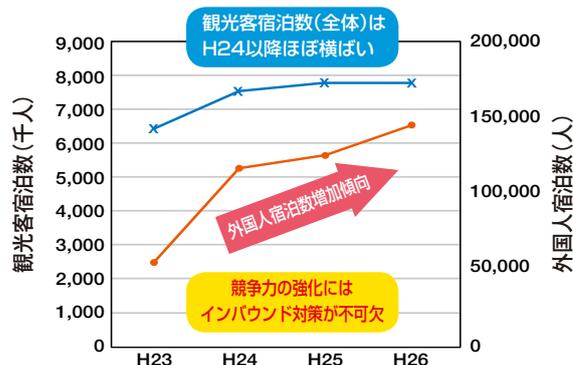


栃木県の総人口の将来推計

資料：総務省「国勢調査」を基に栃木県推計

■国際競争と都市間競争の激化

国家・都市間競争が激化し、グローバル化が進展する中で、都市と地方がそれぞれ競争力を強化する必要があります。



栃木県の観光客宿泊数の推移

資料：栃木県観光交流課

■切迫する巨大災害

近年、東日本大震災や関東・東北豪雨といった大規模災害が相次ぎ発生し、今後も首都直下地震や豪雨災害等の巨大災害が切迫しています。

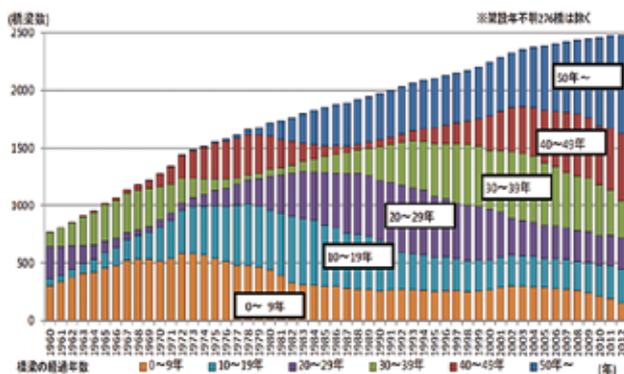


主な海溝型地震の評価結果 (H28.1 現在)

出典：文部科学省 地震調査研究推進本部

■道路インフラの老朽化

橋梁・トンネル等の道路インフラの大部分が高度経済成長期に建設され、今後一斉に老朽化が進行していくことから、修繕・更新による安全確保が急務となっています。

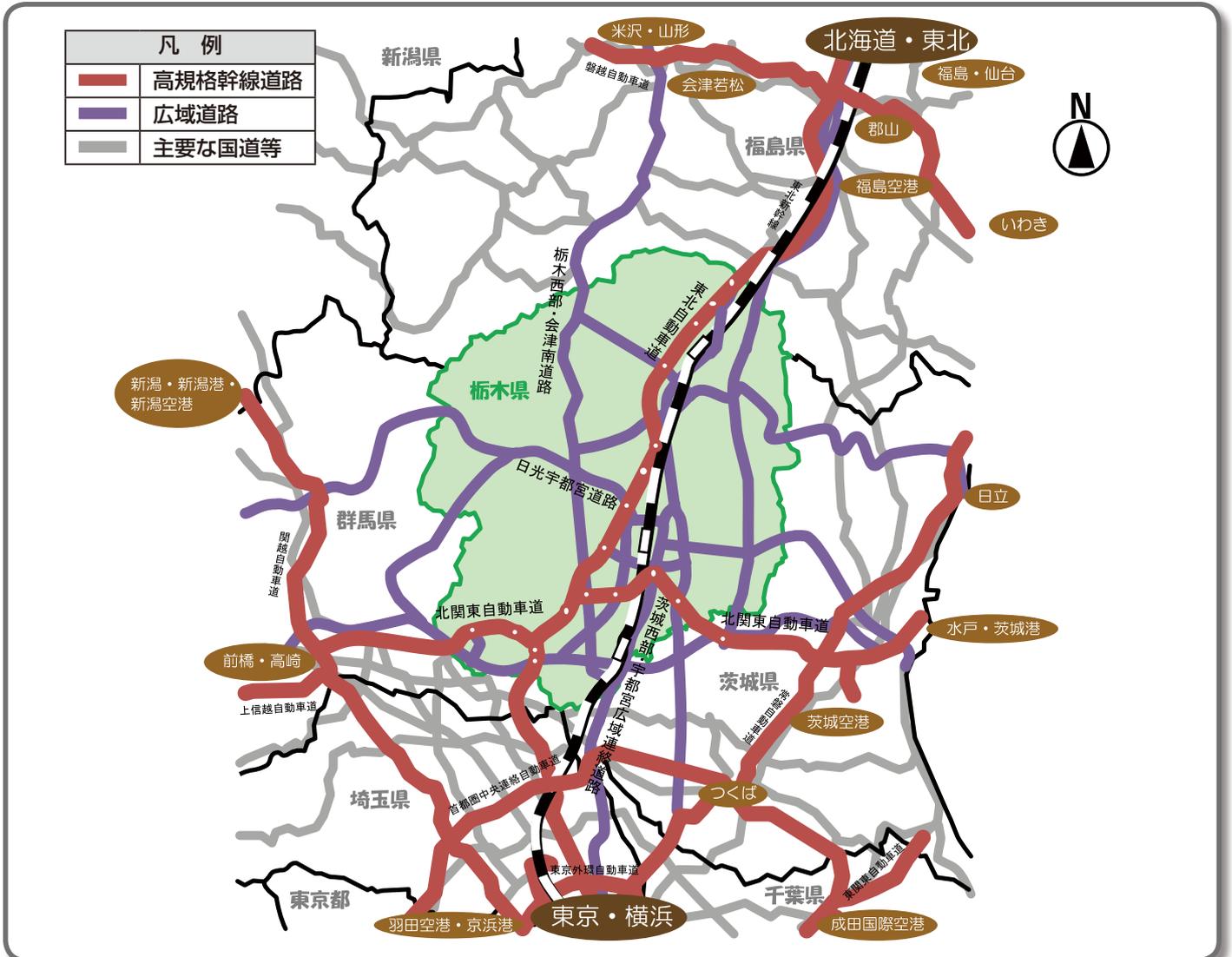


県が管理する橋梁の経過年数のグラフ

出典：栃木県県土整備部

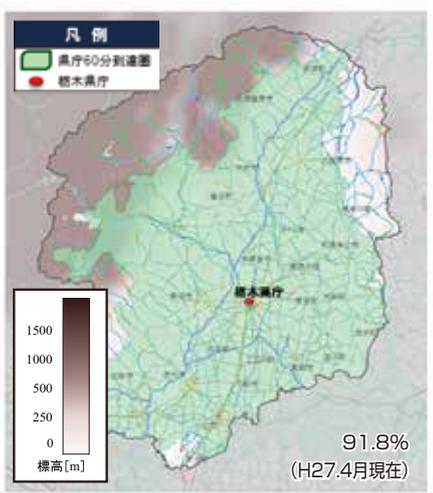
広域道路網の状況

本県の骨格となり、県域を越えた地域との連携に不可欠となる高規格幹線道路や地域高規格道路等の広域道路の整備を進めています。

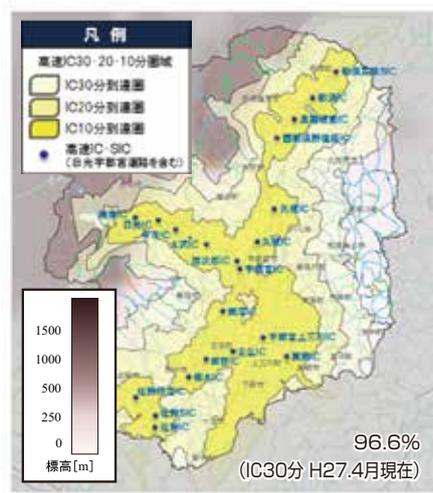


現況道路網における主要拠点までの所要時間

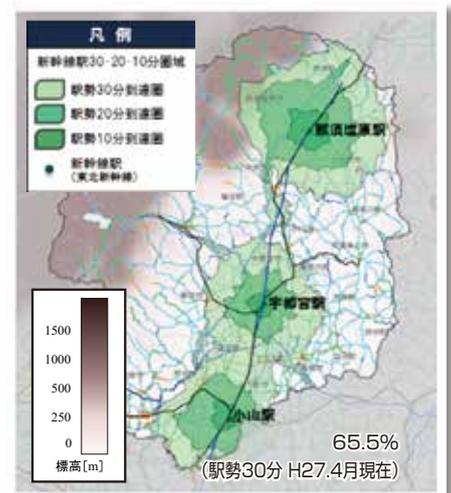
県庁アクセス60分圏域



高速道路ICアクセス圏域



新幹線駅アクセス圏域



とちぎ地域づくりビジョン (21世紀中頃を展望)

～本県の目指す将来像～

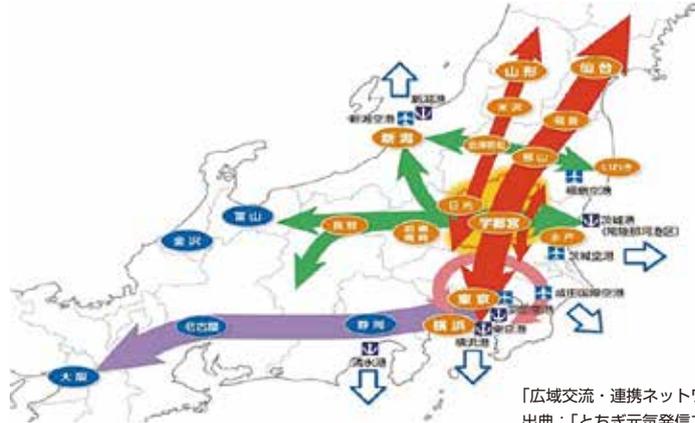
人も地域も真に輝く 魅力あふれる元気な“とちぎ”

■世界・日本の中の県土“とちぎ”

本県は首都圏に位置し、東日本における南北軸と東西軸の結節点にあります。

今後、圏央道やリニア中央新幹線等により西日本との連携強化も期待されます。

この地理的優位性を活かし、世界へつながる交通の要衝として人・モノ・情報が集積した県土を目指します。



「広域交流・連携ネットワーク」
出典：「とちぎ元気発信プラン」

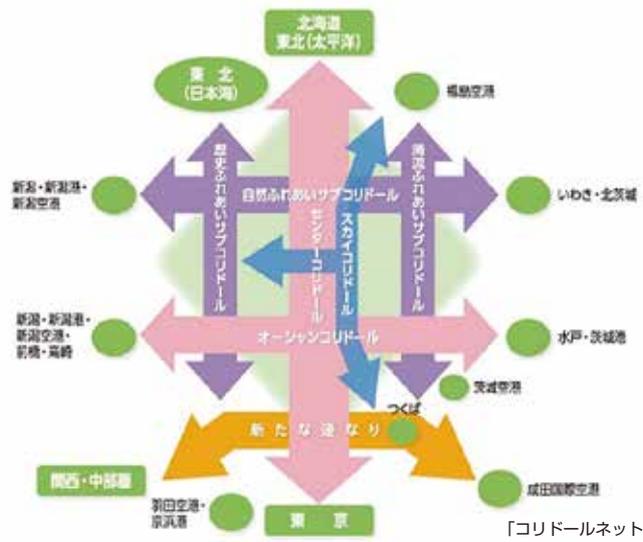
■県域を越えた広域連携

コリドールネットワークを最大限に活用し、県内各地域間の交流・連携を強化します。

首都圏や磐越地域、さらにこれらの圏域も越えた広域な交流・連携を促進します。

【コリドールネットワーク】

本県では、交通基盤等を軸に、人、モノ、情報、技術、産業、文化などが活発に交流し、これらを通して有機的な連携が図られる地域の連なりを“コリドール”と呼び、そのネットワークの形成を進めてきました。

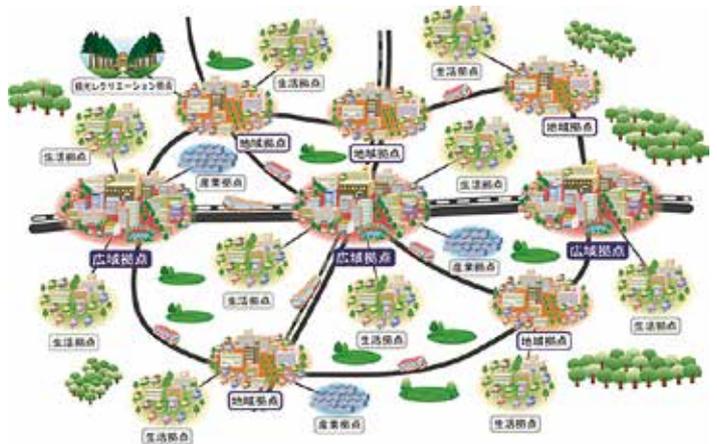


「コリドールネットワーク」
出典：「とちぎ元気発信プラン」

■都市と農山村地域の連携

広域連携の効果を県内全域に波及させ、農山村地域においても一定の生活サービスを楽しむよう、都市と都市、都市と農山村の連携強化を図ります。

また、切迫する大規模災害に備え、十分な防災・減災対策を図るとともに、県民誰もが安全でスムーズに移動できるネットワーク型の都市を目指します。



「とちぎのエコ・コンパクトシティ」のイメージ
出典：「とちぎの都市ビジョン」

21世紀中頃を見据えた広域道路網計画策定の視点

本県では、21世紀中頃を見据えた上で、広域的な交流連携の促進により本県全体の活力維持・増進を図るとともに、様々な災害リスクの増大に備え、広域道路網の整備・強化を図ります。

■スーパーメガリージョンとの連携

リニア中央新幹線により、三大都市圏が一体化し、世界最大のスーパー・メガリージョン（広域経済圏）が形成されます。

本県においてもスーパー・メガリージョンの効果を享受するため、リニアや圏央道、空港・港湾といった国際ゲートウェイと結節する広域交通ネットワークの機能強化を図ります。



出典：「国土のグランドデザイン 2050」（国土交通省）

■日本海・太平洋2面活用型国土の構築

東日本大震災の教訓から、国土全体の安全を確保するためには、日本海側と太平洋側の連携を強化し、ネットワークの多様性・代替性を確保することが重要です。

東北・関東の結節点である本県において、日本海・太平洋2面活用型国土を実現する道路網を構築します。

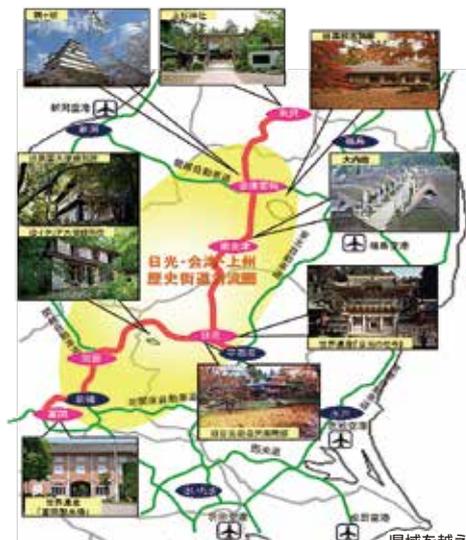


首都圏における日本海・太平洋2面活用型国土イメージ
出典：「首都圏広域地方計画」（国土交通省）

■県域を越えた連携

本県は多様かつ豊富な観光資源が集積し、充実した産業基盤を有することから、これらを活かした県土づくりを推進します。

人口減少・超高齢社会においても県域を越えた交流圏の創出により、地域コミュニティの維持・活性化を図るため、県境をまたぐ広域幹線道路の整備を推進します。

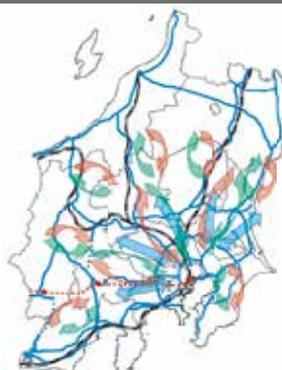


県域を越えた連携の事例
出典：「首都圏広域地方計画」（国土交通省）

■圏域間対流促進

「コンパクト+ネットワーク」により、多様な主体が連携し、都市・地域の魅力を高め、地域資源を活かす道路ネットワークの構築を図ります。

また、県民の安全・安心な生活を守るため、災害時にも安定して機能し、緊急輸送を担う道路網を確保します。



圏域間の対流イメージ
出典：「首都圏広域地方計画」（国土交通省）



「コンパクト+ネットワーク」による「小さな拠点」イメージ
出典：「国土のグランドデザイン 2050」（国土交通省）

広域道路網整備の基本方針

“とちぎ地域づくりビジョン”の実現に向け、4つの目標に基づき、本県における広域道路網の整備を進めていきます。

■国際交流拠点や全国とのネットワークの強化

- 国際交流拠点である空港・港湾等へのアクセス性の向上を図るため、新たなスマートIC設置等による高速道路の機能強化を促進するとともに、高速ICへのアクセス道路の整備を推進します。
- また、県域を越えた交流連携の強化を図るため、地域高規格道路等の広域幹線道路の整備を推進します。



計画中及び事業中のスマートIC

■災害に強い県土・地域づくり

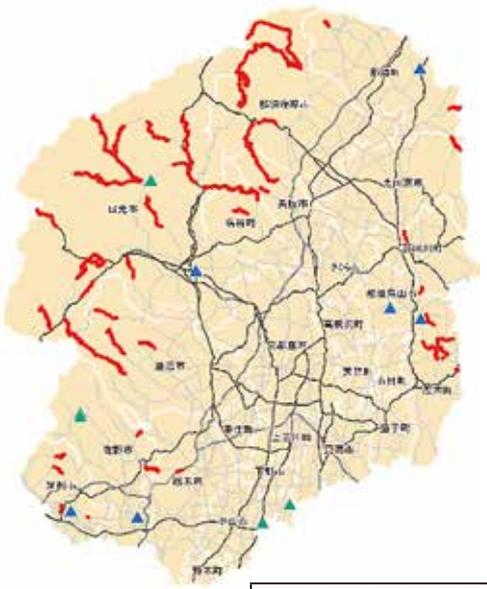
- 災害に強い県土を構築するため、幹線道路はもとより、幹線道路と防災拠点を結び防災・減災ネットワーク道路の確保・強化を計画的に推進します。
- 橋梁・トンネル等の道路構造物について、計画的な修繕・更新を推進します。



防災・減災ネットワーク道路の対策状況

■持続可能な地域社会づくり

- 広域的な連携・交流による地域社会の活性化のため、拠点間を結ぶ幹線道路網の整備や、広域的な道路のミッシングリンクの解消を推進します。



県管理道路の異常気象時等通行規制図

■魅力ある都市・地域づくり

- 本県全域に集積する観光資源や産業基盤等、地域の魅力を磨き、連携させることで都市から農山村に至るまで活力を波及させ、地域コミュニティの維持・活性化を図ります。
- 道の駅等の地域拠点について、利便性や周遊性の向上に向けた取組を推進します。



栃木県の観光資源と道の駅

VERY 
GOOD
LOCAL

とちぎ

とちぎブランド推進のキャッチフレーズ

ベリー グッド ローカル とちぎ
VERY  GOOD LOCAL

「グッドローカルなとちぎが地方のモデルになっていこう。」
ローカルの良さが詰まったとちぎが、前向きな決意を込めて宣言します。

栃木県 県土整備部 交通政策課

〒320-8501 栃木県宇都宮市埜田1-1-20

TEL 028-623-2409 FAX 028-623-2399

E-mail kotsu@pref.tochigi.lg.jp

R80

古紙(パルプ)配合率80%再生紙を使用